



紫雲児の心

新潟県では6月を「いじめ見逃しゼロ強調月間」とし、県全体でいじめをなくす取組に力を入れています。いじめをなくし、みんなが過ごしやすい学校にするためには、「決めつけない」ことが大切です。6日(月)の全校朝会では、私が子どもの頃の話为例に、いじめをなくし、自分も友達も成長できるようなかわり方をしてほしいと思い、生徒に次のような話をしました。

人は変わる~決めつけない~

校長 五十嵐 めぐみ

私が子どもの頃、近所に1つ下の学年の男の子が住んでいました。その子は勉強が苦手で、小さい頃から問題ばかり起こしていました。いつも、優秀なお姉さん・お兄さんと比べられ、「あの子はダメな子だ」と、近所で悪い評判が立ち、私もそう決めつけていました。

その子が5年生になった時のことです。担任になった先生が、不思議なくらいその子を誉めるのです。特別なことをしている訳ではないのに、「すごいね!」「さすがだね!」と、先生はその子のちょっとした頑張りを見付けては、大袈裟に誉めていました。私は正直、「誉めるほどのことかな?」と思いました。でも、先生に誉められるようになってから、その子は勉強もスポーツも一生懸命頑張るようになり、問題も起こさなくなっていきました。彼は変わったのです。数年後、その子の一家は引っ越していましたが、その男の子は高校でも頑張り、立派な社会人になったと、噂で聞きました。

もし、その担任の先生と出会わなかったら、彼はどんな人生を送っていたでしょうか?「あの子はダメな子だ。」と周りから決めつけられ、自分でも「どうせ自分は兄や姉と違ってダメに決まっている。」と決めつけていたら…。その先生と出会ってたくさん誉めてもらったことで、彼は「頑張ろう!」と思えたのでしょうか。そして、いつもその子のよさを認めて誉めていた先生の姿が、私を含めた周りの人の彼に対する「決めつけ」を消し去りました。その結果、彼は変わったのです。私はその先生のすごさを感じると同時に、周りの人と同じようにその子のことを「ダメな子だ」と決めつけてしまっていた自分を深く反省しました。「決めつけ」は、いじめにつながります。

人は変われます。そのために大切なのは、「決めつけない」ことです。「どうせ自分は無理に決まっている」と、自分の限界を決めつけて挑戦する前から諦めてしまったり、友達に対して「あの子は昔からそうだから、今さら変わる訳がない」など、ダメに決まっていると決めつけたりすることは、人の成長を邪魔します。だから、自分のことも友達のこと、決めつけないでください。人は、自分の努力と周りの人の温かさで、変わるのです。

新潟県では、6月を「いじめ見逃しゼロ強調月間」としてしています。いじめをしない、見逃さないで、みんなが過ごしやすくするためには、相手を尊敬(リスペクト)することが重要です。決めつけをせず、相手への尊敬(リスペクト)の気持ちをもって毎日を過ごしましょう。そうすれば、いじめがなくなり、自分も友達も成長できるはずですよ。

6月1日(金)に、地域の方から学校に電話がありました。「この間、畑にいたら、中学生が5~6人来たので『お帰りなさい』と言ったら、『ただいま~』と言ってきて、気持ちがカラッと晴れたんです。嬉しくて電話しました。」と言っておられました。その話を聞いた私も嬉しくなり、全校朝会でこの電話の内容と「この中の何人かの人たちの行動が、地域の方に元気を与え、心を明るくしたのです。素晴らしいですね。これからも、人に元気や安心を与えられる言葉がけや行動ができる人になってください。」と、全校生徒に伝えました。

また、先日は1年生と3年生の総合的な学習の時間に、それぞれ地域の方を講師にお招きして地域学習の講演会を行いました。2年生は2学期に、地域の方にお世話になりながら職場体験をする予定です。

地域の方に見守られ、地域の方から様々なことを学びながら、生徒が人として育てていることに感謝いたします。今後も、地域の皆様のご支援・ご協力をよろしく願いいたします。